



めいおんの会

「めいおんの会」

(名古屋音楽大学出身教員の会)

発行責任者 会長 川合 恒之

次期教育課程に思う(教員の在り方はどう変化するか)

名古屋音楽大学教授 柴田 篤史

気がつけば、大学に奉職して30年以上が経っています。赴任したのは1994年10月で、当時は「平成元年学習指導要領」、学校教育の方向性は昭和の教育観を色濃く残していました。当時のキーワードは国際化と情報化、もう昔話になっていますが、94年には既に土曜日が月一回休日になっていました。翌95年には隔週土曜休日となり、学校に通う日数が減らされ、同時に教える内容が精選(削減)されていきます。私が大学教員になったばかりの頃は既に次の指導要領が大きく変わることが確定していました。『ゆとり教育』です。

私の大学教員としてのキャリアは、学校教育の大きな変革と共にありました。教科教育の在り方も大きく変わっていき、1998の平成10年学習指導要領での学校五日制(完全土曜休日制)と授業時間数の大幅削減、総合的な学習の時間の導入、「学ぶのであり教えるのではない」教授へのシフト、選択教科の意味付けの変化…個人的には中学校での教授経験はありませんでしたが、現場の先生方はこの激動の価値観の変転をどうやって乗り切っているのだろう、と考える教員養成をしていました。

現在、2017の平成29年学習指導要領での学校教育は「主体的、対話的で深い学び(主対深)」をキーワードにしています。これは教育課程審議の段階ではアクティブ・ラーニングと呼ばれ、教職課程を担当する私達教員には随分と早い段階から「次はアクティブラーニングだ」という警戒心を与えていました。蓋を開けてみればゆとり教育以来の《生きる力》が脈々と息づく、生活中心カリキュラムです。いわば、教科中心主義の古い枠組みをベースにしつつ個性伸長を図るという、非常に意欲的な、言葉を替えれば欲張りな教育課程です。その結果何が起こったかと言えば、落ちこぼしどころか、教育の二極化に拍車がかかり…最早、上層・下層がくっきりと分かれつつあると感じます。

次回改訂は2026年度におこなわれ、2027、令和9年から試行が始まるとされます。今年度と来年度の2年間は、次の指導要領の骨子を示すための「審議期間」となるはずです。

前回のH29年改訂では、特に「三つの柱」の三つ目である「学びに向かう力、人間性など」という文言が全く何を意味しているのか現場に伝わらず、結局「主体的に学習に取り組む態度(主学態)」という言葉に置き換えられていますが、次期改訂もこの主学態は重視されるでしょう…これは、「教えるのではなく、学ぶ」という方針で現場を大きく悩ませた《ゆとり期》を彷彿としますが、事は更に厳しくなると予想しています。キーワードは社会全体の幸せ、ウェルビーイング(Well-being)です。

学びが「個別最適」「協働的」であることを求められ、おそらくコアになるのは総合的な学習の時間で、高校での「総探」になると予想します。予想は予想にしか過ぎませんが、敢えて大胆に…主対深、主学態はその地位を押し上げメインキーワードになるでしょう。そこで隠し味となるのは「教科横断」とすると予想します…複免という教師の在り方は、最早絵に描いた餅ではないかも知れません。



「名古屋市の中学音楽科教育課程編成を経験して」

名古屋大学教育部附属中・高等学校

駒田 純子 (H17卒)

近年の学校教育は、グローバル化やICTの進展により、大きな変革を迎えています。音楽科教育では、楽譜を読み、演奏する技能を習得するだけでなく、ICTを活用したり、生徒同士で対話したりするなど創造力や表現力を育むことが重要視されるようになりました。

名古屋市でも、2023年度から「ナゴヤ学びのコンパス」で学びの基本的な考えが示され、一人一人の成長過程に合わせた、3つの学びの姿【夢中で探究する】【自分に合ったペースや方法で学ぶ】【多様な人と学び合う】が重視されています【図1参照】。令和6年度に教育課程の作成に携わり、3つの学びの姿を基に教育課程を作成しました。

《 3つの学びの姿を基にした学習活動例 》

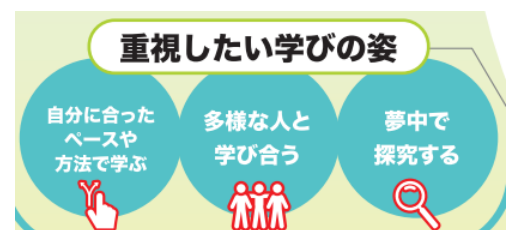
【自分に合ったペースや方法で学ぶ】

【夢中で探究する】

- 「鑑賞楽曲の作曲者や時代などの背景を調べる。
- 教科書のQRコードを読み取り、デジタルツールで創作をする。
- 自分たちの演奏を録音・録画して、表現ができているか確かめる。よりよい表現を追求する。

【多様な人と学び合う】

- 表現を工夫する活動で「どのように表現したいか」という思いと意図が自分の演奏や創作に反映できているか、生徒同士で意見交換をしながら表現を深めていくなど、対話的な学び。



【図1ナゴヤ学びのコンパスより】

教育課程編成に携わり、時代の変化と共に音楽科教育も変化していくことを学びました。教育課程編成の経験を生かし、生徒たちが音楽を通じて自己の可能性を広げられるよう、上記のことを実践しながら、これからも研鑽を積んでいきたいと思います。



<https://nagoyaschoolinnovation.city.nagoya.jp/compass>



令和7年度 研修会のご案内

- 【日 時】 令和7年8月30日(土) 10時より
- 【場 所】 名古屋音楽大学 ホールDO
- 【研修会】 「クラリネットからオーケストラまで」 <仮題>
- 【講 師】 名古屋音楽大学学部長 橋本真介 先生
(クラリネット奏者)

